

2018 International J/24 World Council Meeting
10/20 @ Coral Reef Yacht Club, Miami, Florida USA
議事録ならびに報告書

作成 2018/11/20 博多フリート 近藤

スケジュール

- 10月19日(金) 18:00～ 全員集合して デイナー
- 10月20日(土) 9:00～ WCM
20:00～ 全員集合して デイナー
- 10月21日(日) 8:00～ 2019年ワールド開催会場の施設の確認ツアー

WCM 議事録

1. IJCA テクニカル委員会のノミネート

IJCA テクニカル委員会のメンバーが紹介されました。委員長には、アルゼンチン協会から、Alex Finsterbusch さんが指名されています。

2. Christopher Howell 事務局長からの報告

事務局からの年間報告がありました。

- 1) 財務面での継続的な成果…会員数は右肩下がりながらも、事務局は艇計測等の活動に力を入れ、財務面においては一定の成果を出し続けています。過去6年間のうちに新規計測と再計測合わせて600件以上あり、ここ数年では90艇体以上の新規計測や名義変更が行われています。そのデータは事務局にてPDFにて保管されています。※なお、フォームの制度について、現在は、ビルダーにて発行されたものの紛失され、ビルダー倒産等の事由により再発行ができない計測フォームについて、それを救済する方法はないということです。
- 2) 広報活動の充実…各国協会の不断の協力もあって、WebサイトやSNS等の媒体を通じて幅広く情報が発信されています。今後も、特にFacebookを活用して力強い広報活動を展開していく方針で一致しました。

3. Kenneth Porter 会計係からの会計報告

会計係から昨年度決算と今年度予算についての報告と決議がありました。今年度予算については、昨年度のものと同様のものです。

4. ITC(テクニカル委員会)からの年間報告

新委員長から委員について紹介があり、クラスルール変更についての検討や、ワールドでのテクニカル委員会の活動について報告がありました。

- 1) ブーム重量の計測について…計測の困難性や非効率性に鑑み、ブーム重量の計測を既存のルールのまま行うかについては要検討
- 2) ラダー…ワールドでは89艇中8艇のラダーに問題があったということです。イタリア製のラダーにおいては、重心が低くなるようラダー下部に鉛が仕込まれており、

USA 製には、前方エッジがカーボンで強化されているのが見つかりました。

- 3) PFD (ライフジャケット) …テクニカル委員会としては、PFD について、標準化されていないもの、自体重に対して不十分でないものは、ルール違反であるとの明確な基準を、選手への普及に努めるようです。

5. J/Boats. Inc より報告

近年では、多くの J/24 艇体の売買があったが、ほとんどすべてが中古艇であるとのこと
です。新しいモデルの中古艇については出回りが少なく、より多くの新艇のオーダーがあれば、それが将来的にクラス全体の向上にもつながるため、協会を通じて、新艇購入の機会を促進させるよう求められます。新艇の建造については、イタリアとアルゼンチンでのモールドが比較的安価でかつ非常に良い状態にあります。(info@jboats.com)

6. クラスルールの変更

1) 前章

J/24 hulls, … , or sails after certification … → … sails after initial measurement …

クラスルールにセールの認証登録制度はなく計測しかないので、それに適合するよう、
改正されました。

- 2) F.4.2(a)MANDATORY の(3)の文章がそのまま、F4.3 WEIGHT にインデックス変更

- 3) C.9.8 の(c)Limitations “Running rigging shall not be fed below deck” を “Running rigging shall not be rigged below deck.”へ変更することが議決された。

これはツイーカーなどのラインが、排水穴を利用してデッキの下を通してコントロール
できるような構造は違反になります。デッキ上にて操作されなければならないとい
う規定です。セールアップした後、そのハリヤードロープがハッチを通してデッキ内に
垂らしておくなどの行為を禁止するものではない。

4) J.7 RACING WITHOUT ENGINE

アルゼンチンなどガソリンエンジンが禁止され、電気エンジンも入手困難な水域にお
いて、現状ではクラスルール違反放置のままレガッタが行われているため、エンジン無
しでのレース（その際の最低重量は 1318 kg）を可能とする付則が提案されました。主
催の JCA から IJCA または World Sailing への申立と認可を以て、エンジンの装着義務
を除外したレガッタを運営ができるとする条件が決議されました。

7. レガッタの規定(Regatta Regulations) – 付則 G(フリート分け)についてのルール変更

- 1) 言葉尻の変更とナンバリングのアップデート(微細な変更のため省略)
- 2) 12.10 の追加…大会の主催者(Organizing Committee)には最低 2 名の英会話能力者が
必要。
- 3) 19.8 と 19.10 について確認…19.8 では、「IJCA は 1 月 1 日から 14 日以内に各国協会
に、それぞれの会員数の計算のもとに、世界選手権の権利の配分を伝える」とあり、
各会員はメンバーシップを前年 12 月 31 日までに獲得しなければなりません。その上
で 19.10 では、「各国協会は IJCA 事務局に、権利の選考の上、選出されたヘルムスマ

ンを可能な限り、遅くとも大会 90 日以前までに通知しなければならない」と再確認しました。

- 4) 20.3 と 20.4 の削除…クラスルール違反に対してのペナルティは、IJCA の Web サイトまたは標準の帆走指示書にあるとおり、適用されます。
- 5) ペナルティについての再検討…RRS44.1 ならびに 44.2 (回転ペナルティ) は世界選手権では適用されず、44.3 のペナルティが適用されます。クラスルールにある標準レース公示と標準帆走指示書は再検討下にあり、そこでは黄色旗による点数式のペナルティは今後使われない方向にある。

8. 付則 H、付則 J についての再確認

クラスルールの表と違反艇に対してのテクニカル委員会が行う行為についてまとめた資料を参照して下さい。意見等があればテクニカル委員会(Alex)が募集しています。それを踏まえてルール全体について検討される予定です。

9. セールの大会前計測について

現状では、セールの計測は大会会場にて個別に計測されており、大会計測員の経験値による誤差や人材獲得の困難性などの理由から、Certification Measurement の方式に変更することが提案されました。決議については今回は行われませんでした。来年の評議会では決議される模様です。

この方式では、セール計測は公式計測員によって大会以前の計測が原則となり、不可能な場合は大会会場での公式計測員による計測も受付可能とされ、IHC(In-House Certification Measurement, セールロフトでのスタッフによる計測)もオプションとして可能とするようです。

10. 2018World の報告

今年のワールド、イタリア大会の報告がありました。

11. 2019World のレビュー

2019 年のワールド、マイアミ大会について、Mark Pincus(2019 World's Regatta Chair)から大会会場について紹介されました。ウェブサイトが設立されており、情報は随時アップデートされるとのこと。現時点では、6 艇程度がチャーター用に手配されています。ハリケーン等の災害の恐れがあります。ホテル等は、会場周辺を利用するのが良いとのこと。

12. 2022 のワールド開催地について

評議の結果、2022 年は、アメリカ、テキサス州 Corpus Christi Bay にて開催されることになりました。

13. 次回の評議会日時

次回の評議会は 2019 年の 11 月 16~17 日に、2020 年の大会会場にて行われる予定です。

今回の議題とは別に、計測証明書「Part A.B.C」紛失している艇の問題について、私が質問したところ、アメリカや他の国でもこの問題は多く有り、近いうちに、この書類の提出義務を外すことを検討しているそうです。

(以上)